

## 憲法記念日に

今日は 1947 年 5 月 3 日施行の日本国憲法を記念する日だ。1948 年に生まれた私は、憲法とほぼ同世代である。憲法施行 70 年。日本国憲法はきわめて危ない状況にある。憲法記念日にあたり、思いを書き記しておきたい。

とにかく病弱だったらしく、幼い頃のことは、あまりよく覚えていない。でも、母に連れられて名古屋駅裏（駅西）の「鉄道病院」に通っていたとき、闇市やバラック小屋、傷痍軍人などから、戦争の記憶がかすかに残る。子どもながら戦争というものに拒否感を感じて育ってきた。そんな「戦後教育」も受けてきた。私の姉は敗戦近くに「事故」により急死した。母はあまり話したがらなかった。父が書き残したものによると、戦後まもなく復員すると、母が泣いて急死した姉のことを伝えたそうだ。父は姉の顔を見ることもなく戦地に赴いた。戦争のことをもっと聞いておくべきだった。

こんな悲惨な戦争の足音が聞こえてくるようだ。安全保障関連法にもとづいて、平時から自衛隊が米軍艦船などを守る初任務を命じられた海上自衛隊の護衛艦「いずも」が、1 日午前横須賀基地を出港した。朝日新聞 1 日夕刊「素粒子」から一房総から四国沖まで米艦に寄り添う護衛艦。何から防護するのやら。ともかく実績作りの駆けつけ警護にも似て。北朝鮮は危機なのか。失敗ミサイルで東京の地下鉄が止まる。ソウルは平常通り。日本の首相は外遊のちぐはぐ。

トランプ政権になり、にわかに世界がきな臭くなってきた。朝鮮半島も緊張の度合いを高めつつある。安倍首相はトランプに自制を促すどころか、軍事的圧力を支持する。いたずらに北朝鮮の脅威を煽り、「危機」を利用しているかのようだ。先の「素粒子」にも、その一端が書かれている。特定秘密保護法から安保関連法、いま国会で審議中の「共謀罪」法案という一連の流れから、安倍政権がなにを目指しているかが見えてくる。アメリカに追随して、再び戦争の道に走りだしているのではないか。

犯罪が実際に起きていない段階でも、「内心」を取り締まり、思想・信条の自由を脅かす共謀罪。安倍一強政権は、「数の力」でなりふり構わずに成立させようとしている。共謀罪法案は「思想および良心の自由は、これを侵してはならない」という憲法 19 条に反するものだ。まさに憲法違反である。安倍政権は憲法そのものを改悪しようとしている。憲法とともに戦後日本を生きてきた一人として、けっして黙ってはおれない。

写真は 2014 年 5 月 3 日の朝日新聞。その右は昨日 5 月 2 日の日本経済新聞。1 日の「新しい憲法を制定する推進大会」で挨拶する安倍首相と中曽根元首相。



(2017 年 5 月 3 日)